

日本子ども学会 News Letter No.2

2011年8月16日発行

日本子ども学会事務局

第8回子ども学会議開催のお知らせ

開催日：2011年10月1日（土）、2日（日）
会場：武庫川女子大学 日下記念マルチメディア館
メインテーマ：育ちと学びを支える
サブテーマ：1日「子どもの育ちと学び」
2日「東日本大震災の子どもたちを支える」



学術集會に参加される場合は、事前申し込みをされた方がお得になります。

会員 事前予約 3000 円 当日 4000 円

参加申込の詳細 <http://www.blog.crn.or.jp/kodomogaku/02/> をご覧ください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

■第8回子ども学会議学術集會によせて 大会実行委員長 河合優年

来る10月1日（土曜日）、2日（日曜日）の2日間、兵庫県西宮市にあります、私ども武庫川女子大学におきまして、子ども学会議学術集會の第8回大会が開催されます。昨年川越で開かれた第7回大会では、次回は「子どもの育ちと学びをつなぐ」というテーマで開催したいとご挨拶しました。その後、鋭意大会準備を進めておりましたが、3月11日の東日本大震災という未曾有の災害を前にして、大会推進委員会、大会実行委員会ともに、子どもを対象とした学際的な集まりである子ども学会だからこそ出来るのではないか、という議論になりました。そこで、テーマを「子どもの育ちと学びをつなぐ」から「育ちと学びを支える」に変更し、私たちが子どもたちの健やかな育ちと学びを、どのように支援することができるのか考える場としたい、ということで意見がまとまりました。

私たち学会員は、医学、心理学、教育学、福祉学、情報科学、メディア、芸術などの諸領域で研究や実践を行っている人々が、「子ども」という共通部分で繋がっています。子どもが示している姿や、今必要としている事柄を、医学から見るとこのように理解できる、心理学から見るとこのように説明できる、教育実践から見るとこのように表現できる、というように、複眼的に捉えられるのが、子ども学なのではないかと思えます。

そして、このような複眼的な捉え方は、どの子どもたちにとっても共通である支援のあり方を通して、今回の震災によって強いストレスにさらされた被災地域にある子どもたちにとって必要な支援のあり方も教えてくれるのではないのでしょうか。

子ども学会には子ども学会だからこそできる、様々な支援を必要としている子どもたちの未来に向けた取り組みがあるはずで、みなさん、ぜひ大会に参加して、子どもたちのための支援の輪の一部となってください。参加すること自体が子どもたちと彼らを取り巻いて支えている人々へのエールとなります。

今回の大会では、初日に子どもの長期的な追跡から見えてきた育ちの過程と理解の方法について議論し、さらに広く、子どもを取り巻く現代社会の文化的な影響という視点から、子どもの発達と環境について議論します。二日目は、子どもの育ちと学び、そして支援のあり方について、阪神・淡路大震災から16年を経た神戸からの報告と提案を、東日本大震災から半年を経た現地の今の声とクロスオーバーさせながら、今私たちに何ができるのか、未来の子ども達のために議論していきたいと考えています。

■プログラム

10月1日(土) 子どもの育ちと学び

○シンポジウム「小児医療から見た子どもの育ち」

話題提供：「周産期からひも解く子どもの育ちと支援」

藤村正哲（大阪府立母子保健総合医療センター 総長）

「フォローアップ研究から見えてきたこと」

金澤忠博（大阪大学 人間科学部教授）

指定討論：河合優年

座長：榊原洋一（お茶の水女子大学教授）

○基調講演：「現代社会と子どもの発達問題を考える」

玉井日出夫（前文化庁長官、武庫川女子大学客員教授、玉川大学教授・教育博物館館長）

演者紹介：小林 登（日本子ども学会理事長、東京大学名誉教授）

10月2日(日) 東日本大震災の子どもたちを支える

○シンポジウム：「震災の子どもたちを支える：阪神淡路大震災が伝えるもの」

話題提供：「震災遺児支援、これまでとこれから」

八木俊介（あしなが育英会 あしながレインボーハウステーブディレクター）

「子どもたちの16年」

中溝茂雄（神戸市教育委員会事務局 指導部指導課 課長）

指定討論：小石寛文（神戸学院大学教授）

座長：一色伸夫（甲南女子大学 人間科学部総合子ども学科教授）

○シンポジウム：「震災の子どもたちを支える：今何が起きていて何が求められているのか」

話題提供：「子どもを支える地域のつながり ―ソーシャルワークの視点から―」

大坂純（仙台白百合女子大学 人間学部総合福祉学科教授）

「赤ちゃんと子どもの支援学」

吉田穂波（産婦人科医、ハーバード公衆衛生大学院リサーチフェロー、プライマリ・ケア連合学会被災地支援チーム派遣医師）

「避難所になった学校、今だからやれる学校経営」

佐々木丈二（宮城県石巻市立湊小学校校長）

指定討論：八木俊介、中溝 茂雄

座長：内田伸子（お茶の水女子大学 客員教授）

2011 年度 5 月理事会報告

日時：2011 年 5 月 14 日 12:00～15:00

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 第
校舎 110 番教室

出席者：小林登、安藤寿康、一色伸夫、太
田美代、河合優年、木下真、坂上浩子、佐
々木玲子、首藤美香子、沢井佳子、高塩純
一、竹下秀子、竹林洋一、所真理子、仁木
和久、長谷川真理子、原島博、開一夫、宮
下孝広、劉愛萍、渡部茂、渡辺富夫



1

■主な報告事項

1) 2010 年度の決算報告

・別紙を参照。本年度より白梅学園大学の小林美由紀先生に監査をお引き受けいただいた。

2) 第 8 回子ども学会議準備状況

・震災をテーマにしたプログラムについては、今大会で終わりにするのではなく、継続して取り上げていくようにしたい。

・ポスター発表は学会を活性化させるために、発表時間を長くしたい。また、ポスター発表は会員資格を求めると、大会長推薦枠などを設けて、非会員にも発表の機会を与えることも考えていきたい。第 8 回大会で試験的に取り組む。

・震災に関する意見を参加者から募りたい。今大会では、従来の懇親会をイブニングミーティングという形にして、震災に関する意見交換の場にする。

3) 「チャイルド・サイエンス Vol. 7」の発刊

・抜き刷りの希望に応えるようにしたい。費用は実費のみ。

4) (広報・会員規約・研究開発・総務) 各委員会から

・副理事長の榊原洋一先生と、理事の一色伸夫先生が、6 月中旬からイギリスとノルウェーを訪問し、現地の「子ども学」研究の視察を行う。

・開発委員長・安藤寿康：国際的な視点での研究開発を考えていきたい。

・総務委員長・所真理子：第 7 回大会終了後、今後の子ども学会議運営の参考になるように「子ども学ガイドライン」の提案と作成を行う。第 8 回から利用開始。内容については適宜見直す。

・財務委員長・沢井佳子：第 8 回大会が神戸で開かれることを契機に、関西、西日本エリアの会員が増えるよう、会員拡大に取り組んでいきたい。

5) 第 9 回子ども学会議の開催

理事会開催時では未定であったが、その後の常任理事会で決定。第 9 回大会は筑波大学で行うことになり、大会委員長は安梅勅江先生にお引き受けいただいた。

東日本大震災・子ども応援プロジェクト

仙台市の若林区荒浜地区は、3.11の震災のニュースの第1報として、自衛隊により200から300の遺体が見つかったと報じられた地域です。海岸から2キロ近くにわたって津波が押し寄せ、あたり1面が泥に埋まりました。

今回日本子ども学会の有志による子ども応援プロジェクトでは、この仙台市の沿岸地区の荒浜小学校と東六郷小学校という2校の小学生を小豆島のサマーキャンプに連れて行くことになりました。両校とも海岸から2キロ内に位置しており、学校は津波によって破壊され、現在は他校に間借りして、授業を行っています。子どもたちの自宅はすべて流されてしまい、仮設住宅や借り上げ住宅で暮らしています。



過酷な体験をした子どもたちですが、いまは落ち着きを取り戻し、夏のサマーキャンプを楽しみにしています。「初めて飛行機に乗れる」「友達とお泊りができる」「流しそうめんが食べたい」、そんなささやかなことで盛り上がっています。

今回、日本子ども学会の理事の一人である松尾忠正先生（千葉敬愛短期大学講師）に、教職者としてのご経験や人脈を活かしていただき、被災地の教育委員会との連携、また子ども目線でのプログラム制作を進めていただきました。内容は大変充実したものになっています。

また、本会員の皆様を中心に、さらに香川県、小豆島町、瀬戸内国際こども映画祭の多くの方々のご協力により、360万円近い賛同金が集まり、被災者に負担をかけることなく、4泊5日のサマーキャンプを実施できることになりました。会員の皆様には、厚く御礼申し上げます。

今後も、東日本大震災の被災地の子どもたちの支援を続けていきたいと思っておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災・子ども応援プロジェクト推進委員代表 木下真

■子ども応援プロジェクト

参加児童：仙台市の荒浜小学校、東六郷小学校の5、6年生34名

開催時期：2011年8月18日～22日

交通：仙台駅⇄東京駅⇄羽田空港⇄高松空港⇄高松港⇄国民宿舎小豆島

予算：参加児童、引率者の交通費、宿泊代、食事代、イベント費用として約400万円

主な内容：①小豆島観光（寒霞渓、山岳霊場、銚子溪自然動物園など）

②瀬戸内国際こども映画祭（オープニングイベント、映画鑑賞）

③地元の小学生との交流イベント（地引網、案山子づくり、流しそうめんなど）

主催：東日本大震災・子ども応援プロジェクト推進委員会

共催：瀬戸内国際こども映画祭実行委員会

後援：日本子ども学会、香川県、小豆島町

協力：仙台市教育委員会、千葉敬愛短期大学

推進委員：木下真（日本子ども学会事務局長）、松尾忠正（千葉敬愛短期大学講師）

参与：小林登（日本子ども学会理事長）ほか理事の皆様。

監査：内田伸子（お茶の水女子大学客員教授）